

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

学級活動の指導案作成および模擬授業の発表を学生に課している。

授業の最後に本日の講義の要点について、板書に赤の下線を引きながら再度説明する。本講義はソーシャルワーカーの資格審査に関わる内容を扱うため、出題に関わると思われる重要事項や概念については、暗記することが必要である。それを分かりやすく板書で一覧できるようにしている。

3年4年ともなると学生自身も授業で扱うピックスに対して自分なり意見を持っていることが多い。そのため、授業中に発言を求める、話し合いをさせるといったように意見表明の機会を設けている。ただ、大人数の授業でもあり受講生同士や教員から新鮮な視点をもらうという「アハ体験」につながりにくい点が課題である。

15回の授業のうち、後半の授業は独自の方法で学生に模擬授業を行わせ、その後、学生同士で意見交換をさせている点。

・授業において、グループワークや各自が読んだ本を紹介するプレゼンテーション及びプレゼンテーションに対する感想カードを活用し、学生が主体的に授業に参加し、授業内容の理解を深めることができるようにした。
・現職教諭の話聴く時間を設定し、養護教諭の職務内容や養護教諭の役割について、具体的に理解を深めることができるようにした。なお、事前に質問事項を聴取することで、より関心を高めるようにした。

本授業は幼稚園に行き、幼児と遊び、保育の楽しさを体感することを目的としている。また、園長先生への質問時間を確保しているが、今後の実習において、園長先生に直接疑問や質問をすることが時間的に難しくなることも想定されるため、貴重な体験であることを学生に伝えた上で質問に臨ませている。

受講人数の多いクラスもあるが、できるだけ個々の学生が個人単位で発表とそのコメントを受けられるようにしている。

映画 音楽(ポップス) マンガ などサブカルの導入
レポートを輪読させ、レポートの書き方を学ぶ。など。

課題について考えを記述し、その後ペアやグループで話し合いを行い、その後全体で発表する形態をとり、学生が主体的に考えることができるようにした。
提示物を工夫し、イメージがもてるようにした。
資料の中で、大切なところは、学生がまず予想して書き込むことができるようにした。まとめとなるところを15問のクイズ的に示し解答を行った。
学生の教育実習経験を想起させながら、具体的な問題場面を考えさせた。
毎回ワークシートを用意し、ワークシートの最後には、意見や感想等を書かせ、朱を入れて次回返却した。さらに、次回の講義の内容に生かした。

授業前半の講義(教授)については、プレゼンを利用するとともに、その画面を印刷して配付し、重要事項の書き込みや復習ができるようにした。また、授業の後半には毎回ALを設定し、討論や演習を通して学びを深めるようにした。

・グループによる事例検討を実施し、グループでの討論を充実させている。
・できるだけ学校現場で起きた問題事例を紹介し、解決策を討論させ、それをふまえて担当者の経験に基づいて対応の仕方を説く。
・絵本の読み聞かせを学生たちにさせる活動をさせている。

・最も配慮している点は、受講生の「主体的な学び」についてです。この点において、グループディスカッションやグループワークをできる限りの時間を割いて取り入れるよう、毎回の授業時間を組み立てています。

・グループディスカッションでの課題は、はじめて教壇に立って実際に遭遇するような現実的な問題や課題を中心に提示しています。そうしたディスカッションテーマを互いに話し合うことによって、多面的な意見を自らの考えの中に取り込みつつ、実践的なスキルを身につけてもらいました。

・あわせて、「教科外活動の研究」では期末課題であるオリジナルの「学級活動指導案」作成にあたり、グループワークによる指導案の「相互批評」を実施しながら、より豊かな「主体的な学び」に結びつけてもらいました。

市販されているものではなく、保育現場の今を共有できる保育映像の視聴や、事例や学生自身の実践をもとに保育環境や援助の選択肢を考えたり、グループディスカッションをしたりすることで、理論と実践の往復に努めている。

毎回行っていること

・レジュメ作成；授業の内容とタイムテーブルの提示、連絡事項等を記載

・感想文とそのフィードバック

・グループワーク；6人を基本としたグループを構成。感想文の読み合わせ、グループ討議等を行う。

ポスターセッション；自治体等の社会教育実践を調査し、ポスターにまとめ、授業時間内で行う。

ワールドカフェ；社会教育事業計画を作成し、それをワールドカフェ形式で発表交流し意見交換を行う。

2年次には保育所実習で子どもの前で絵本・紙芝居を読むなどの実習をすることから、この時期(1年後期)には、「保育者」になったつもりでみんなの前で話したり、絵本・紙芝居を読んだりする体験を、できるだけ多く取り入れるように工夫している。

また、これらの活動を通して、他の学生のどのような点が具体的に良いのか、何を工夫すると技能が向上するのか等について全体で討論し、全体を通して各学生の技能が向上するようにしている。

15回の授業のなかで、最低限必要な知識の伝達を行いつつ、教育現場で解決的アプローチが求められている課題について、模擬的な事例検討を中心に実践的なテーマを取り上げている。また、その際には、学生間での対話が十分にできる時間を設けるようにしている。

パワーポイントの資料のほか、映像資料、文献資料などを組み合わせ授業資料を必要に応じて準備をしている。

地域福祉論については、地域での実践者、地域で生活する当事者に授業でのゲストスピーカーをお願いし、実践現場の課題を学生と共有した

グループディスカッションを行う際、適宜席替えをしている。

・座学講義中心の授業ではなく、グループワークや学生同士での対話の場を多く設定し、ふり返りにより、どんな学びを得たかを重視している。

・正解を教える授業ではなく、学生がどう考え、どのような問いを生み出すのかを重視している。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、関連する生理学的な仕組みについても適宜説明した。

また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

養護教育講座の6人の専任教員がそれぞれ工夫して行っている。

現職のゲストティーチャーにも講義を依頼している。

教養科目に近いし、100人を超える授業なので、時事ネタや芸能ネタなどを心理学の観点から解説し、興味を持たせるようにしている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

模擬授業の評価および学級活動の授業を観たことによるレポートで評価した。全般的に高い評定をつけた。

授業内小テストの点数に、期末の論述テストの点数を加えたもの。また別に出題したレポートを提出したものについては、その内容に応じて点数を加算している。

最終テストやレポートは40%程度であり、60%は毎回のコメントシートや受講態度からと、平常点を大きくしている。

模擬授業を観察した学生に、あらかじめ用意した評価シートにおける5項目に5段階で評価点とコメントを記入してもらい、その結果に基づいて最終的な成績を決定している。

教職の意義への理解や養護教諭の職務・役割への知識・理解の修得、力量形成に意欲的に取り組む態度について、筆記試験及びレポート内容、出席状況などを基に評価した。

全員が年少、年中、年長のクラスに入り、保育経験をしているが、実習後には体験・学習内容、疑問点、感想、観察内容などをレポート用紙にまとめると共に、それに基づいて配属クラス毎にディスカッションを行う。また、ディスカッション内容は毎回皆の前で発表し、各学年、各クラスでの遊びの内容や子どもの様子等をシェアリングしている。成績結果は主として提出されたレポート内容に基づくものであるが、出席状況や実習時の態度等、特に問題が見られる学生においてはその点も成績に加味されている。

授業参加度(コメントの内容)と発表および発表後の考察と今後の抱負のレポート。さらに、教科外活動に関する方針をレポートし、児童生徒への啓発ポスターなども成績基準となっている。

レポート2個、70%。
毎回のリアクションペーパーなど、30%。

毎回の講義でワークシートを使い、学生が考えやメモを残せるようにした。それを毎回集め、記述内容を5段階で評価し、14回行った。ワークシートの最後には、意見や感想を書かせ、次回の講義に生かした。第15回では、それまでの内容のまとめを記述させ、内容の深まりを評価した。最終試験で大切なポイントを問う問題を出し、15回までの累積した点と合計して総合評価を行った。

授業のふり返りを毎回記入させ、学びの深さを数値化(30%)、課題レポートを2回課し(30%)、さらに定期試験を行う(40%)ことで学業成績を算出した。事前に学生にも、この評価方法を知らせておいた。

- ・毎時間ごとの授業感想をふまえ、授業のねらいを達成しているかを判断する。(45%)
- ・グループごとの事例検討に対する取り組みの姿勢や考え方を判断する。(10%)
- ・定期試験により、本講義のねらいを達成しているかを判断する。(40%)
- ・15回の講義プリントや資料などを保管し、復習に心がけている。(5%)

・シラバスに記載した内容の通り、中間テスト+期末課題レポート(指導案)+毎授業時に提出するリフレクションペーパーの内容を数値化することで、厳密かつ客観的な評価を行っています。

定期試験(記述式)、授業への取り組み(観察、毎回のリフレクションペーパー)、提出物(授業づくり実践に関わるもの)、出席をそれぞれ点数化し、授業づくりの理論や指導法に関する理解力を総合的に評価した。

積極的な授業態度や発表内容・姿勢、授業理解を確認するレポートやテストの具体的な内容など

- ・最終レポートの、記述の正確性、内容の明確性、考察の深まり。
- ・授業全体を通しての参加状況。

パネルシアターの製作と実演、絵本・紙芝居の実演、絵本ノートの作成について、「大変優れている」～「学修が不十分」まで6段階程度で評価している。(計90点)
その他、授業態度として、出席回数、参加態度、発言内容などで評価している。(10点)

授業への参加度及び授業内外レポート(50%)、期末の試験(50%)を基準として評価した。

平常授業で提出を求める小レポート、出席点、および定期試験の筆記試験成績を総合的に判断をした。

定期試験やレポートの成績、授業への参加度、授業への出席などにより総合的に評価した。

- ・毎回のふり返しシートの記述や試験(全授業を振り返ってみて)自分がどう変化したかを、論理的に論述しているかを基準としている。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験合格者は $(100 - \text{本試験の得点}) \div 4$ を本試験の得点に加えた点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

授業への参加度

レポート評価。課題の指示に従って、形式を整え、考察に関しては広く深く考察しているか。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

高等学校の内容については授業の中では扱えなかったので、今後は受講生に応じて検討したい。

内容について難しいと感じる学生がまだいることから、難しいが分かったと感じられるように、説明を工夫していきたい。

- ・資料の文字は読めるように大きく修正する予定である。
- ・教員自身の意見を表明し、その反対意見も含め、多様な視点も示すよう努力する。

アンケートを見る限りでは学生側に不満はほとんど感じられない。強いて言えば、学生とのコミュニケーションが少し足りなかったかもしれない。

- ・問2, 3で、授業を基に自分なりの問題点を考えたり、思考を深めたりという行動につながった学生は半数に満たないことから、問題意識をもたせ、自分自身で解決する姿勢を身に付けることができるようにしたいと考えた。
- ・授業についての質問や感想を記入させ、フィードバックするようにしたいと思った。

本授業は幼児教育選修の学生にとっては比較的楽しみとなり得る授業内容と考えられるため、授業評価はおおむね良好である。今後とも、幼児と遊ぶ楽しさだけでなく、保育の楽しさ、奥深さをより実感できるような内容を考えていきたい。

受講生人数が多いクラスがあり、本授業の特徴でもある学生個々人の発表とそれへのコメントという枠組みが時間不足で難しいと思うところもある。人数が多い場合にはグループでの発表にすることも考える必要があるかもしれない。

じっくり分析して考えます。今のところ特にないが。

学生に事前に課題を出すことをしなかったことで、学生自身がこの授業に費やした時間が少なかったのが残念だった。学生が自分で調べたり資料を見つけたりする場を今後増やしていきたいと思う。授業展開や話し方をより工夫し、学生が有意義だと感じる授業内容にしていきたい。

プレゼンの画面をもう少し見やすいものにする。

- ・問15(自学時間)で、ほとんどの学生が予習や復習に取り組めていない実態が明らかになったので、今後は自学できるレポート提出も課題として与えたい。

・予復習を中心とした、授業外学習の時間が不足しているように思います。授業外学習を積極的にとりくめるよう、より一層明確な「予復習項目」の提示を行うことによって、授業内容の定着を図るよう心がけてまいります。

- ・学生が事前・事後研究できる課題を提示し、学生の自発的な学習意欲を高めることも授業の中で行うことが必要だと感じる。
- ・学生が授業の中で自らの考えを表現できる場面をもっと増やしていきたい。

この授業のための週あたりの学習時間について1時間未満がほとんどであったため、予習・復習を意欲的にできるようにしなかけを工夫していきたい。

・130人を超える授業におけるアクティブラーニングを試行錯誤している。以下の点については継続して探究したい。

- ・講義とグループワーク等のバランス
- ・時間管理
- ・提出物とその評価

実技的な内容においても、今後は考えた問題点を学生同士でさらに情報を得ながら深めていくような学びを取り入れるように工夫したい。

前期授業の反省を生かし、リアクションペーパーを活用した授業展開を工夫したところ、授業者とのコミュニケーションに対する満足度が改善された。今後は、授業外課題の充実を図りたいと思う。

パワーポイントを使用する際に、一方的な授業になってしまう傾向があった。さらに双方向の授業にブラッシュアップしていきたい。

また、映像資料を使用する際に、教室ごとに再生ができるメディアに違いがあり、再生が出来なかったり時間がかかる場合があった。事前に再生可能かチェックを行いたい。

授業内容を深めるため、配布する参考資料を充実させていきたい。

・シラバスに試験があることを記述していなかったため、今後記載する。評価基準を示して欲しかったとの学生からの記述があった。授業の中で確実に説明していく。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う・ややそう思う』が3年生: 67.2%, 4年生83.3%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が3年生: 32.7%, 4年生33.3%で、目標が十分達成できたとは思っていない学生も多数いるようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が3年生: 27.9%, 4年生27.8%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が3年生: 85.3%, 4年生83.3%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった学生も多数いる、と解釈できる。今後は、授業内容を吟味し説明を工夫するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

さらに興味を持たせるにはどうするか、検討したい。